



病棟生活での楽しむ時間、患者様の同士の関わりをもつ機会として、リハビリテーション室のセラピューティックレクリエーション部門と看護部が協業して、病棟で週2回集団レクリエーションを実施しています。今回は、沖縄県琉球リハビリテーション学校から実習に来ていた比嘉裕二さん、名城美城さんの2人が三線を弾いてくれました。沖縄民謡や懐かしの歌謡曲をみんなで歌い踊りました。参加した患者様は全4回で100名以上にのぼり、「ゆったりとした三線の音に癒された、楽しかった」と大好評でした。

レクリエーション療法士 若野貴司



〒671-0221 姫路市別所町別所2丁目150
 TEL(079)252-5235 石川病院 広報委員会
 発行責任者 事務長 三枝孝弘

地域のために 思いやりと
 信頼性の高い 治療・看護を目指す

半年が過ぎました！ =平成23年度新入職員=

今年4月に看護部5名、リハビリテーション部25名、カープス姫路3名が入職し、仁寿会の一員として働き始めて早6ヶ月！いろいろな事を吸収し、先輩方とも刺激しあってお互いに更なる成長を目指して頑張っています。

今年の4月からお世話になってます。姫路循環器病センターの神経内科・集中治療室にいましたが、回復期リハビリで働きたいと思い病院を変えて来ました。脳・心臓・血管外科系は勉強してきたので、その知識と技術を活用して頑張っていきたいと思います。

看護師 赤尾史門

入社して半年、最初は不安と戸惑いばかりでしたが、先輩方のお陰で随分仕事に慣れてきました。患者さんの声を大切にして、心遣いを忘れず、不快な思いをされないようにしっかり努め、頑張っていきたいと思えます。看護助手 山本ありさ



今年度より石川病院の一員として働かせて頂いております、言語聴覚士の溝口仁と申します。実際に現場で患者様と接することで、たくさんの方のことを考え、学ばせていただき日々の時間の流れがとても早いと感じています。今後は知識、技術を深め患者様の思いに耳を傾け、笑顔でリハビリに取り組んで頂けるようなセラピストを目指し、日々努力を続けたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

言語聴覚士 溝口 仁

石川病院のスタッフは1人1人に意欲がみなぎっていて、毎日たくさんの刺激を受けています。一つでも多くのことを学び吸収し、実践する中で自分らしさを生かしたりリハビリを行っていきたくです。作業療法士 大西 可菜子

入職して半年、毎日バタバタではありますが何とか仕事をこなしています。患者さんから学べることは本当に多いな、と日々痛感しているところです。これからも常に成長できるように、笑顔を絶やさず頑張ります!!

理学療法士 芦田 奈都紀



pixta.jp 2370072

保育所だより

夏の暑さの中でも 元気いっぱいの子どもたちプールやたらいに ためられたお水にぷかぷかと金魚を浮かべてすくってみたり、ペットボトルシャワーを楽しんだり...

しゃぼんだま、色水遊びなど、水の冷たさを心地良く感じながら、夏の遊びを楽しみました。季節が移りかわっても子どもたちの可愛らしさはいつまでもかわりません。



9月は大きな台風が2度も来て、大変でしたね。せせらぎ保育所は、警報が出ても職員の子弟は保育可能です。働きやすい職場を目指して、保育士も頑張っています!!

【外来診察日程表】

石川病院 外来診察日程表													2011/10/01より	
診察時間	科	月		火		水		木		金		土		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
9~12時	15時~19時	9~12時	15時~19時	9~12時	15時~19時	9~12時	15時~19時	9~12時	15時~19時	9~12時	15時~19時	9~12時	15時~19時	
1診	内科1	金岡	小山	小山	加古	金岡	加古	金岡	小山	小山	金岡			
		予約優先	15~17時半		15~17時半	予約優先	15~17時半	予約優先	15~17時半		予約優先			
2診	内科2			大城										
	ペイン			予約制										
				10~12時										
3診	整形1	山本	山本			戸田		戸田	戸田	蔵川		石川齊		
			16~18時						15~17時半			隔週		
4診	整形2	安藤		寺本	安藤		寺本		寺本		安藤			
	リハビリ	予約のみ		予約制	学生16時受付		予約制		予約制		予約のみ			
				10~12時	診察17時~		15~17時		15~17時					
5診	外科1	内田	中島	平田	平田	平田	平田	平田	平田	平田	平田	平田	平田	
							中島							
6診	外科2	石川誠	今脇	今脇	中島	中島	今脇	岡大	岡大	石川誠	今脇	岡大	岡大	
			15~18時		15~18時		15~18時							
7診	耳鼻咽喉	佐地		佐地	佐地	佐地				佐地	佐地	佐地	第1・3週のみ	
		9:30~12		9:30~12	14~16時	9:30~12				9:30~12	14~16時	9:30~12		
8診	泌尿器	石川智基		藤田	藤田	石川智基		藤田	藤田	石川智基		担当医		
	脳神経外	9時半~12時		初診11時~予約優先	10~12時	14~16時	9時半~12時		初診11時~予約優先	9時半~12時		9時半~11時半		

【ペインクリニックと被災地支援】

医療法人仁寿会石川病院 ペインクリニック内科
NPOゆいめど代表・姫路石川脳機能画像研究所長 大城宜哲

2011年3月11日外来中に患者さんから地震があったと聞き、空き時間にテレビを見てみると、仙台空港に海水がじわじわ押し寄せていました。全貌はまだわかりませんが直感的に阪神淡路大震災を超える大災害になると感じ、そのまま直中にNPOのメンバーに電話をかけました。4日後には東京で主要メンバーを集めて会議を行い、9日後にはいわき市の要請で支援物資を届けました。救急医療の出番はなく、最も喜ばれたのはガソリンでした。

その後友人のアメリカ人医師、パッチアダムス氏と電話で話し、4月にパッチアダムス募金を設立、石川病院からも多くの支援をいただき、5月4日に宮城県石巻市の住吉小学校で炊き出しなどを行いました。6月にパッチアダムス氏が来日しましたがスケジュールの都合で被災地入りはならず、銀座を道化師の格好で練り歩く「すまいるバトン in ニッポン」を行い、読売新聞やフジテレビなどで報道されました。6月から私が福井大学兼任で多忙になったことで活動が下火になりましたが、その後もメンバーが女川で炊き出しや医療相談など行っております。

9月18日にイタリアの女性クラウン、ジネーブラ・サングイーニョとともに岩手県の大槌町の仮設住宅を回りました。以前の訪問と明らかに違っていたのが医療相談のニーズでした。高血圧や不眠の訴えとともにやはり多いのは痛みの相談で、簡単なブロック治療も行いました。家族だけでなく勤め先まで流されて知人もほとんど失ったという青年はよくわからない皮疹に悩まされていました。

私のようないいかげんな男がNPOを主宰しているのは政治的なものでもなんでもなく、3年前までアメリカにいた私が、日本の仲間と研究のやり取りをするためにネットワークを作ったことがきっかけでした。その後医師の仲間が増えて行きましたが、私が在米中にハリウッド映画「パッチアダムス」のモデルであるアダムス氏と知り合い、その来日支援を始めたことで医師以外のメンバーも増えてきたのです。私の中ではペインクリニックと被災地支援はつながっています。

最近痛みという領域に光が当てられ、手術前後の急性痛の管理は格段の進歩を遂げました。しかし慢性痛の研究はまだ始まったばかりで、いまだに「痛みは心理的なもの」と切り捨てる人もいます。

しかし、痛みは脳で作り出されるものであり、こころとからだの接点を示すものです。阪大の真下教授、柴田教授のもとで始めた痛みの脳研究はその後も続き、3代目の住谷昌彦先生は東大に移り心理学的手法で痛みの研究を続け、石川病院では前田吉樹PTが5代目として頑張っています。アメリカのロバートコグヒル博士との共同研究では脳による痛みの



2011年9月18日 岩手県大槌町の仮設住宅にて

コントロールがいかに重要かを示してきました。福井大学では子どもの痛みに関わったことで、子どもは不安やうつを身体症状で示すことが多く、その最も多いのが痛みだということを知りました。こどもの発達研究センターの友田教授は震災後のPTSDは秋口から問題になってくると予想しています。

今後被災地ではこころの痛みとともにからだの痛みも増えてくるでしょう。石川病院を中心に大学や研究機関、そしてNPOのネットワークを活用して、微力でも痛みを和らげることができればと思っています。



大城宜哲医師（右端）

NPO法人ゆいめど

ゆいめどは「結」と「Medical」の名のとおり医療関係者を中心に2008年7月にNPOとして設立されました。ゆいめどでは新しい病院環境や医療システムについて考え、研究と臨床応用を進めるとともに、人々の生活向上のための様々な活動を行っています。

NPOゆいめどウェブサイト：<http://yuimed.com/>

新任看護部長挨拶

看護部 部長 竹林 弥生

当院は開院40周年を迎える記念すべき年に新館も完成しました。この記念すべき年に看護部長を拝命し、師長の経験も浅い私には戸惑いとこれまで以上の責任の重さを感じています。

3月1日から新館で診療を開始し6ヶ月が経ちましたが、職員の協力が得られた事で大きなトラブルも無く経過できたと思います。

看護部は看護学生に臨地実習の場の提供を行っています。平成22年4月から新人看護職員卒後研修は努力義務となりました。当院で学生の臨床指導や卒後研修を実施することは看護の質の向上や医療安全の確保、早期離職防止と人員確保に繋がると考えます。

今後は地域の皆様にご指導、ご鞭撻を賜り連携に努めて参りたいと思います。



がんのリハビリテーション研修会に参加して

この度、7月16・17日に北海道札幌市で開催された「第5回がんのリハビリテーション研修会」にがんのリハビリテーション料を算定する為にリハ医、理学療法士、作業療法士、看護師の4名で参加しました。

内容としては、KJ法の説明から始まり、がんのリハビリテーションの概要、化学療法・放射線療法の副作用とリスク管理、骨転移患者への対応、周術期リハビリテーション、がん患者の摂食嚥下障害、コミュニケーション障害、心のケアとリハビリテーションなど多岐にわたる内容で講義やグループワークを中心に実施されました。

リハビリテーションの実施においては、基本的な考え方については他の疾患と大きく変わるものではありませんが、病状が短期間で変わる可能性があることや生命予後を考慮した目標設定がより重要になってくると話されていました。

患者さんと関わる上で最も重要なことは、やはり「コミュニケーションを取る」ことです。特にがん患者さんの中には不安や抑うつ傾向にある方が多いため、「傾聴」と「共感」という言葉をkey wordとし、目標達成時には「一緒に喜ぶ」ことを忘れず、医師・看護師と情報を共有しチーム医療を実践することが重要であると再認識する良い機会となりました。



リハビリテーション室 赤江由之